

紙風船



成長をふり返る！

PTA学校公開日で！

参観ありがとうございました！

先週の木曜日(23日)に今年度最後の『PTA公開日』がありました。当日は授業参観→PTA全体会→PTA専門部会→学級懇談と、短い時間で盛りだくさんの内容となってしまいましたが、多くの保護者の皆様にお出でい

ただきたいへんありがとうございました。

授業では、各学年・学級とも趣向を凝らした内容で、感謝の気持ちや調べたこと、自分自身が成長したことなどを自信をもって堂々と発表する場面が多くみられました。

学校では、授業を通して【伝える喜びを感じることができる子どもの育成】を目指して授業研究に取り組んできましたが、その成果の一端を保護者の皆様にも見ていただけたのではないかと思います。また、何よりも今年一年間の子どもの成長を実感していただくことができたのではないのでしょうか。今年度残りの期間は少ないのですが、現状に甘んぜず、いっそう子どもたちが【伝える喜びを感じ】て授業や集会などの場面で発表できるように、全職員で取り組んでいきます。



『PTA学校公開日』に併せて行われた【学校評議員会】では、評議員の方々から「子どもたちの表情が生き生きとしていて楽しそうだった」「堂々と発表していて大変よかった」などの感想をいただきました。1年間ありがとうございました。

連載「00シリーズ」

新『学習指導要領』

前号(22号)に引き続き、今回も「道徳の教科化」について話題としたいと思います。

前号では「評定」のことについて話題としましたが、今回は「特別の教科 道徳」になって、これまでの道徳の授業がどのように変わるのかについて話題としたいと思います。

簡単にいうと、【これまでの道徳の授業をどのように行ってきたか、教師一人一人の実態で異なる】ということです。本校の先生方のように、これまで【道徳的な価値を自分との関わり

で考えさせる】授業を行ってきた先生方にとっては、それを充実させればよいだけですので大きな変化はありませんので、安心していただきたいと思います。

さて、それでは「特別の教科 道徳」に保護者はどのように関わったらよいのでしょうか？それは、保護者も道徳授業に参加するという関わりが求められています。つまり、保護者が子どもと共に学び、教師と考えることで、学校と家庭を結び付け、相互に『考え・議論する道徳』の場として積極的に関わることを期待されています。

「考える」とは、子どもたちが「今の自分はどのような考え方や感じ方をしているのか」自覚するために考えることで、昔の偉人の言葉や辞書で調べたことをそのまま自分の考えとすることではありません。また、「議論する」とは、自分一人では考えが深まらないので、「話し合い」などを取り入れ、友だちと考えを交流するなどして、比べたり検討したりすることを通して、新たな気づきを生み出すこととなります。

少し難しいようですが、これまで行われてきた道徳の授業の中によく見られたといわれている「読み物資料」を読んだり、テレビを見て感想を書いて終わりの道徳の授業ではなく、道徳的価値を自分の問題として考えていくような、主体的・対話的で深い学びのある授業が求められているのです。なぜなら、これからの社会を生き抜く子どもたちには「人としての生き方や在り方について、多様な価値観を認識しつつ、自ら考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を模索し続ける資質・能力」が必要とされているからです。そのためにも保護者の方には【教師と共により良い道徳を創りあげる】という意識をもっていただき、必要に応じて、声かけをしていただいたり、保護者の方の考え方を披露していただいたりするなど、道徳の授業に協力と参加をお願いします。

